

## 1.4 浜寺水路

### 活性化コンセプト：「公園と一体となった親水・市民活動の拠点」

#### 【課題1】 浜寺水路の利活用

府立漕艇センターがあり、昭和43年から浜寺水路において国内・国際の漕艇大会が開催されており、**水域が活用**されています。水路前面の親水護岸は、浜寺大橋や工場群に沈む夕日スポットなど**良好な視点場**となっています。

一方、現在の利用は大会等の限られたスポーツの場となっています。

市民からのニーズにおいては、**水辺に親しめる場所の整備の推進**を望む声が上がっています。

以上より、浜寺水路においては「**浜寺水路の利活用**」が必要です。



図 府立漕艇センター



図 レガッタの練習風景



図 浜寺大橋



図 工場群に沈む夕日

#### 【課題2】 環境学習の場としての更なる活用

親水護岸においては、ミニ干潟での自然観察やコンブの種付け体験等、海や生き物と触れ合うことができる**環境学習の場**として活用されています。

また、浜寺公園においては自然観察の会が開催され、植物や昆虫などの様々な**生物との触れ合いの場**としても活用されています。

市民からのニーズにおいては、**環境学習の継続、自然と触れ合うことができる場所の整備**を望む声が上がっています。

以上より、浜寺水路においては「**環境学習の場としての更なる活用**」が必要です。



図 ミニ干潟を活用した環境学習



図 コンブの種付け体験

#### 【課題3】 海との触れ合いの場の創出

浜寺水路は、昭和初期までは有数の**賑わいのある海岸**であった。現在は、臨海部の埋立事業により当時の面影はみられません。



出典：堺市立図書館HPより

図 浜寺海岸（昭和初期）

浜寺水路の背後に日本最古の公立公園である浜寺公園が立地し、休日等は浜寺公園やプール、バラ園（毎年5月にローズカーニバルが開催される）等の**来訪者で賑わっています。**

また、観光資源となる路面電車（阪堺電気軌道）の終着駅である浜寺駅前駅、有形登録文化財に登録されている南海本線の浜寺公園駅に近接しており、各駅から徒歩1～2分程度と**アクセシビリティに優れています。**



図 夏季に賑わうプール



図 情緒ある浜寺公園駅前舎



図 浜寺水路と浜寺公園を分断する遊歩道



図 公園からの視界を遮る護岸

一方、浜寺水路と浜寺公園が**遊歩道により分断**されており、親水護岸は**公園側からの視界を遮る**ものとなっています。（小学生は安全性確保のため単独で親水護岸に行くことを禁止されている）

また大阪府では府営プール見直しを検討しています。

以上より、浜寺水路においては「**海との触れ合いの場の創出**」が必要です。

#### 【課題4】 深堀跡の水質改善

浜寺水路には、深さ7.7m、容積115.7m<sup>3</sup>の深堀跡が存在し、海域低層の貧酸素状況を引き起こし、**水質が低下**している可能性があります。これにより、生物の生息環境が損なわれており、2004年には青潮が発生し大量の魚が死亡しました。



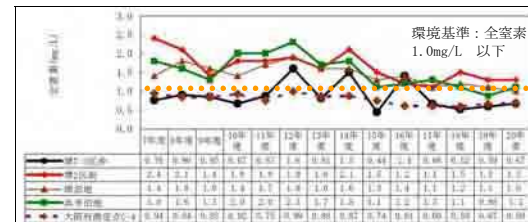
図 浜寺運河で発生した青潮（2004年）

近接する調査位置での水質調査結果によると、浜寺泊地においては全窒素が、石津川橋においてはDO<sup>※1</sup>が**環境基準を超えている**他、三光川橋ではBOD<sup>※2</sup>が減少傾向にあります。

市民のニーズからは水と触れ合うことができる場所を望む声が上がっているものの、良好な水質環境は確保できておらず、ヘドロの浚渫等による**水質改善**を望む声も上がっています。

**水質改善の取組み**のひとつとして、親水護岸前面において浜寺校区自治連合会主導でコンブの養殖が実施されています。

以上より、浜寺水路においては「**深堀跡の水質改善**」が必要です。



出典：大阪湾再生行動計画 平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめ

図 全窒素が環境基準を上回る浜寺泊地

図 コンブの養殖

※1 溶存酸素量。水中に溶存する酸素の量

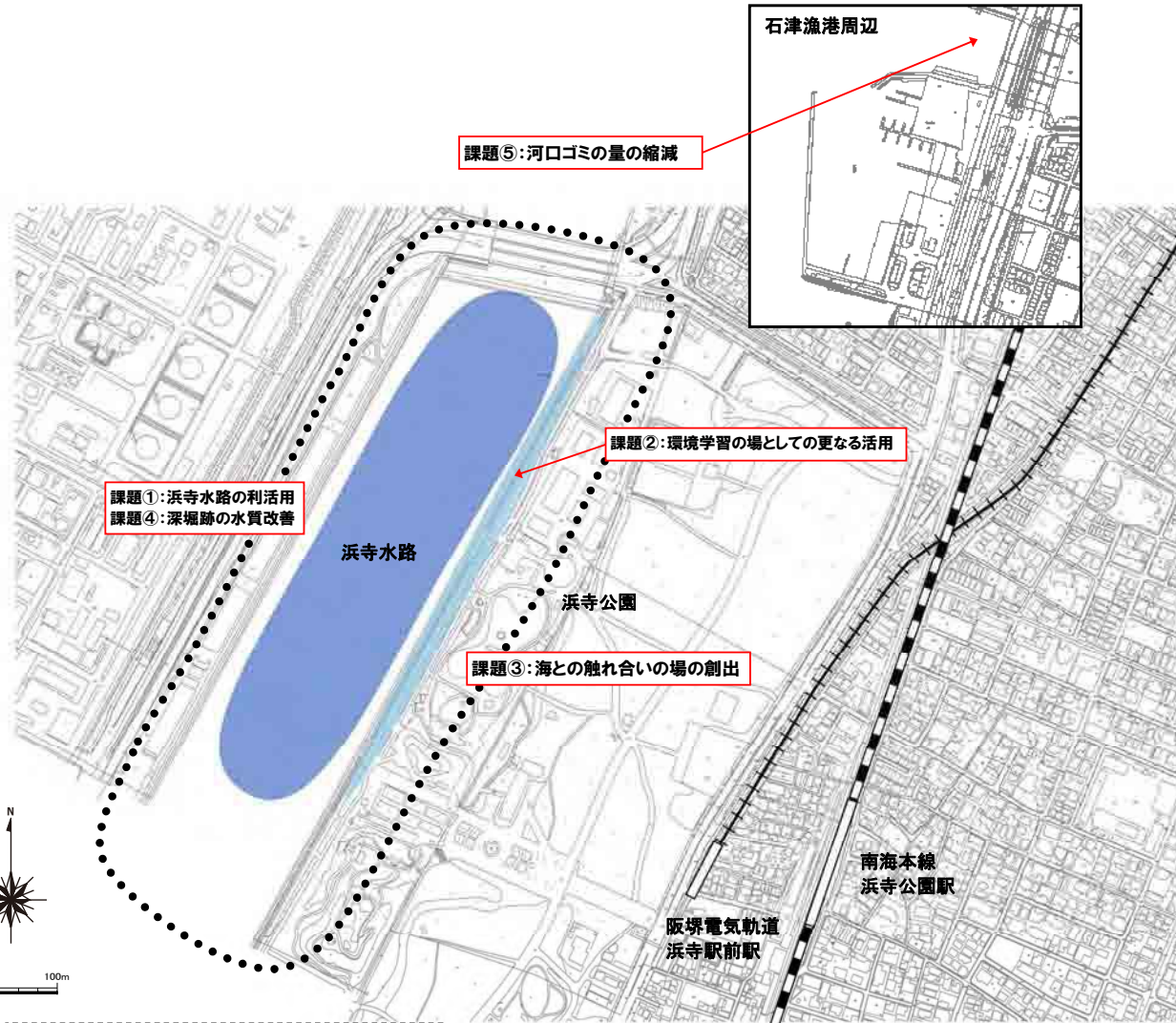
※2 生物化学的酸素要求量。一般に、BODの値が大きいかほど、その水質は悪いと言える

#### 【課題5】 河口ゴミの量の縮減

現状では石津川からの河口ゴミが海域環境を悪化させており、市民生活への影響や周辺の景観を悪化させる要因となっています。

以上より、浜寺水路においては「**河口ゴミの量の縮減**」が必要です。

<コンセプト実現に向けた課題（浜寺水路）>



**課題①：浜寺水路の利活用**  
 府立漕艇センターがあり、昭和43年から浜寺水路において国内・国際漕艇大会が開催されており、**水域が活用**されているが、限られたスポーツの場となっている。水路前面の親水護岸は、浜寺大橋や工場群に沈む夕日スポットなど**良好な視点場**となっている。市民からのニーズにおいては、**水辺に親しめる場所の整備の推進**を望む声が上がっている。

**課題②：環境学習の場としての更なる活用**  
 親水護岸は、海や生き物と触れあうことができる**環境学習の場**として活用されている。浜寺公園においては自然観察の会が開催され、植物や昆虫などの様々な**生物との触れ合いの場**としても活用されている。市民からのニーズにおいては、**環境学習の継続、自然と触れ合うことができる場所の整備**を望む声が上がっている。

**課題③：海との触れ合いの場の創出**  
 浜寺水路は、昭和初期までは有数の**賑わいのある海岸**であったが、当時の面影はみられない。浜寺水路の背後に日本最古の公立公園である浜寺公園が立地し、**来訪者で賑わっている**。最寄り駅から徒歩1～2分程度と**アクセス性に優れている**。浜寺水路と浜寺公園が**遊歩道により分断**されており、親水護岸は**公園側からの視界を遮る**ものとなっている。

**課題④：深堀跡の水質改善**  
 深堀跡が存在し、海域低層の貧酸素状況を引き起こし、**水質が低下**している可能性がある。水質調査結果によると、**環境基準を超えている箇所がみられる**。市民のニーズからはヘドロの浚渫等による**水質改善**を望む声も上がっている。**水質改善の取組**のひとつとして、親水護岸前面において浜寺校区自治連合会主導でコンブの養殖が実施されている。

**課題⑤：河口ゴミの量の縮減**  
 現状では石津川からの河口ゴミが問題となっており、環境への影響や周辺の景観等を考えると、改善の必要がある。

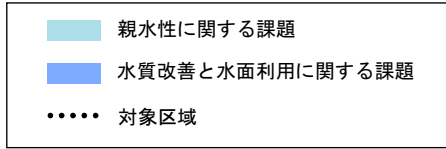


図 コンセプト実現に向けた課題（浜寺水路）